

関金地区版シュタットベルケの構築に向けた エネルギー・買い物支援・生活拠点×交通の共創事業

応募様式A

関金地区版シュタットベルケ共創プラットフォーム

事業の基礎情報

実施主体	倉吉市（※将来的には電力会社に移行することも想定）
事業実施地域	倉吉市関金町
共創の類型	官民共創 ・ 交通事業者間共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	観光・まちづくり ・ エネルギー・環境 ・ 宅配・物流
共創パートナー	日本交通(株)・日ノ丸自動車(株)・日ノ丸ハイヤー(株)・ローソン関金温泉店・ 関金地区振興協議会・(株)鳥取みらい電力・鳥取大学・広島経済大学
運行形態	AIデマンド乗合タクシー（一般乗合旅客自動車運送事業（本格運行時：自家用有償旅客運送））
運行主体	日本交通株式会社

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

倉吉市関金地区では地区内に唯一あった食料品・日用品店が昨年閉店し、また高齢化も進む中で高齢者の買い物支援が喫緊の課題となっている。さらに、地域内を運行する路線バスは利用者数の低迷と行政負担の増加が深刻化している。

こうした地域課題を解決するため、本事業では「関金地区版シュタットベルケ」の構築によるエネルギーと公共交通を基軸とした持続可能で暮らしやすい地域を目指し、再生可能エネルギーの売電収益を活用した乗合タクシーの運行や買い物支援の仕組みの実証を行う。

（事業の概要）

上記の事業目的を達成するため、R5年度には住民ニーズの把握や拠点となる支所への商店設置等をすすめてきた。R6年度はR5年度の結果や取組を踏まえて、地域に公共交通サービスを提供する交通事業者の他、地域内の再生可能エネルギー活用に取り組む電力会社、地域に根差した交流施設・拠点等と連携・協働し、①外出を促進する予約型乗合タクシーの実証運行、②生活・観光拠点と乗合タクシーの連携による新たなサービス等の検討、③乗合タクシーを活用した高齢者等への買い物支援、④高齢者等へのIT利活用の推進・支援と地域との連携による利用促進、⑤再生可能エネルギーを活用した持続可能な仕組みの検討を行う。

関金地区版シュタットベルケの構築に向けた エネルギー・買い物支援・生活拠点×交通の共創事業

応募様式A

関金地区版シュタットベルケ共創プラットフォーム

事業の全体像・共創の仕組み

【買い物支援】

関金地区振興協議会

- ・行政施設内店舗「関金ストア」との連携の検討
- ・地域住民への利用促進、外出促進
- ・目的地施設との連携

ローソン関金温泉店

- ・地域内店舗の運営
- ・商品の在庫管理

連携

買い物支援
事業支援

実施主体・運行主体

倉吉市 総務部企画課

- ・地域運営に関する助言、支援
- ・乗合タクシーの運行主体

倉吉市 市民生活部環境課

- ・電力会社への出資
- ・エネルギー利活用に関する支援

連携

助言・アドバイス等

鳥取大学・広島経済大

- ・事業全体の監修

鳥取みらい電力

- ・発電（水力発電、太陽光発電）
- ・電気の販売、購入
- ・地域課題解決への売電収益による支援

出資、発電設備
設置の支援

売電収益をもとにした
支援金（企業版ふるさと納税）

【交通サービス】

倉吉市（集落支援員）

- ・乗合タクシー、宅配の受付管理
- ・スマホの使い方教室や支援

配車指示

日本交通

- ・乗合タクシーの運行
- ・定額会員向けの路線バス割引
- ・商品の宅配

運行・受付
委託

乗合タクシー
の運行事業支援

受付委託

連携

日ノ丸自動車・日ノ丸ハイヤー

- ・運行経験に基づいた助言
- ・今後の横展開に備えた準備

取組の詳細

（地域の関係者との連携・協働）

少子高齢化が進む関金地区では、交通サービスや買い物支援などそれ単体で事業を成立させることには限界がある。このため、本事業では地域内の再生可能エネルギーを活用した電力会社と連携することで、売電収益を地域へ還元し、交通サービスや買い物支援サービスを提供する仕組みの構築を目指している。これには、エネルギーや交通・買い物サービス等の提供主体、さらに地域交流施設・拠点等との連携が必要不可欠であり、こうした各主体との連携により持続可能な地域を目指す。

（実証事業により見込まれる効果）

本事業の実施により期待される効果を以下にあげる。

❶行政負担の削減効果：路線バスを縮小し定額制の乗合タクシーを運行することで、行政支出を削減（さらに将来的には乗合タクシー運行に伴う費用も、売電収益から賄う仕組みを検討）

❷脱炭素効果：マイカー利用で域外で買い物していた住民が、乗合タクシーを利用して域内で買い物（移動距離の短縮とマイカー利用の削減）することで年間約34.8t-CO2を削減（住民アンケート調査より推計）。

❸高齢者の外出促進と交流促進：域内の移動環境を整え、様々な機能を拠点に集積することで、外出回数の増加や交流促進、またこれによる高齢者の健康増進効果、コミュニティの活性化といった効果が期待できる。

関金地区版シュタットベルケの構築に向けた エネルギー・買い物支援・生活拠点×交通の共創事業

応募様式A

関金地区版シュタットベルケ共創プラットフォーム

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)

項目	担当	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
①住民説明会の開催・利用促進等											
・住民説明会の開催	倉吉市、関金地区振興協議会	←→			←→						
・地域との連携による利用促進、スマホ教室等	倉吉市、関金地区振興協議会、市内IT事業者				←→						
②乗合タクシーの運行準備											
・車両購入・充電設備の設置	倉吉市			←→							
・地域公共交通会議承認・申請	倉吉市			←→							
・システム導入準備・開発	倉吉市	←→									
③生活・観光拠点との連携による新たなサービスの検討	倉吉市、関金地区振興協議会、地域内施設		←→								
④高齢者等への買い物支援準備											
・運用ルールの検討・調整	ローソン、市内IT事業者、日本交通、関金地区振興協議会、倉吉市	←→									
・貨客混載に係る配車システムの構築	倉吉市	←→									
⑤実証実験(乗合タクシー、買い物支援)	倉吉市、日本交通、市内IT事業者、ローソン、関金地区振興協議会						←→				
⑥実証実験に係わる評価検証	倉吉市							←→			
⑦エリア一括協定・シュタットベルケの構築に向けた検討	倉吉市、鳥取みらい電力、関金地区振興協議会						←→				
⑧とりまとめ、報告書の作成	倉吉市										←→

(補助事業実施後の予定)

公共交通については、事業全体の評価検証とエリア一括協定運行に向けた準備を進めるとともに、運行主体を電力会社が担う形（シュタットベルケの構築に向けた検討）を継続し、市内他地域への展開も含めて検討する。また、申請予定の「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金」も活用しながら、再生可能エネルギー施設の地域内への設置を進める。